

削減マーク検討WG メンバー募集について



定量型環境ラベルであるエコリーフ/カーボンフットプリントは、直接「環境によい」ことを表すものではないことから、読み手によりわかりやすく環境配慮をアピールする「削減マーク」の必要性が問われてきました。

このたび「削減マーク」の在り方について、課題や方向性の整理・検討を行うワーキンググループ(以下WG)を開催するため、WGメンバーを募集します。

※削減マークに関する詳細は、3枚目以降の参考資料をご覧ください。

【参加要件】

- ・「削減マーク」に関し、前向きな観点から提案・ご意見をいただける方
(※実施可能か、また実施する場合の望ましい方向性を検討するWGとなります。)

【作業負荷】

- ・WGは1回につき最大3時間、2015年11月/2016年1月/4月の3回を予定しています。
(必要に応じて時間・回数が増える場合があります。)
- ・任意で、事例発表をお願いする場合があります。

【コスト負担】

- ・参加費等は発生しませんが、開催地までの往復交通費のご負担をお願いします。

【開催予定地】

- ・主として産業環境管理協会・会議室(東京・神田)を予定しています。

募集期限: 2015年10月23日(金)まで

WG参加連絡及び問合せ先

一般社団法人産業環境管理協会 LCA事業推進センター エコデザイン事業室(担当:片岡・伊藤)

E-MAIL: ecodesign@jemai.or.jp

TEL: 03-5209-7712 FAX: 03-5209-7716

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2丁目2番1号 三井住友銀行神田駅前ビル

削減マーク検討WG 実施案

【第1回】

- 勉強会の目的の説明
(削減マークをやるかでなく、可能かどうかの検討を目的とする)
- アドバイザリーボードでの話合いの報告、削減マークについてのアンケート結果の分析
- 企業における課題(2.3社程度)

【第2回】

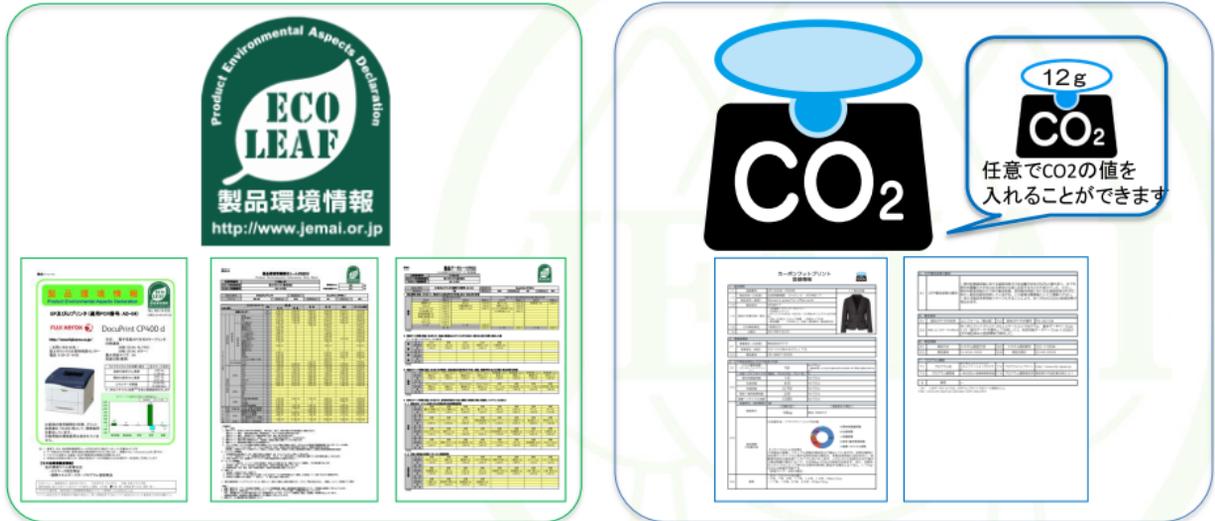
- 国内での削減率表示等の事例
- 海外の事例
- EU環境フットプリントラベルの進行状況報告
- JEMAI環境ラベルの統合プログラム計画と課題
- 今後の進め方

【第3回】: 2016年4月頃を予定

- まとめ

現状のエコリーフ/カーボンフットプリントの情報開示

エコリーフ、カーボンフットプリントの情報開示の仕方は、マーク表示と数値等の説明が記載されたラベル(登録情報シート)です。



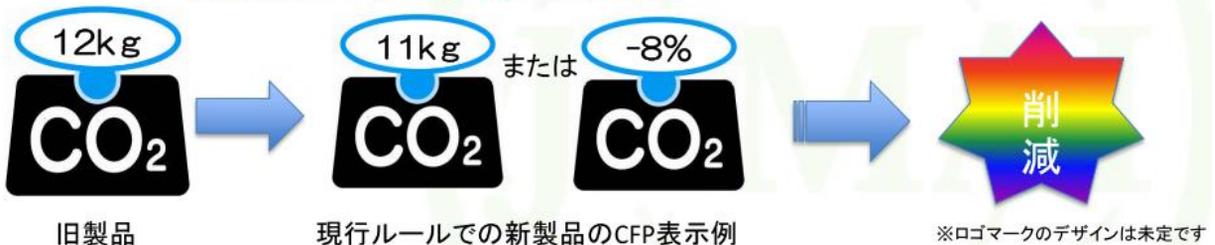
環境に配慮しているかどうかは、データを読む側の、購買者や消費者の判断に任せられます。このためエコリーフ/カーボンフットプリントのラベル・マーク表示は、**その商品が「環境によい」ことを示すものではありません。**

Copyright©2013 JEMAI All Rights Reserved

「削減マーク」の検討

同一企業内の新旧製品や、業界平均からの比較などにより、一定の削減効果が確認できる製品について、「削減マーク」の使用を認めることを検討しています。(認定基準は今後検討します)

【例】過去の製品の排出量が12kg-CO₂だった製品が、削減努力により11kg-CO₂になった場合



※現状でもCFPマークでは「-〇%」という形で削減をアピールすることが可能です。エコリーフは数値表示がないため、表記は新旧、削減の有無にかかわらず、同じ表示となります。

「削減しました」を示す別のマーク

「削減マーク」=「環境によい」としてアピールができます

想定されるメリット／デメリット・課題

削減マークを作ることによって、様々なメリット／デメリットや課題などが考えられ、慎重な検討を行っています。

メリット、賛成意見の例

- ・「環境配慮製品」であることが一目でわかる。
- ・読み手の判断ではなく、事業者側から「環境によい」と言える。
- ・細かい数値や算定の話をしなくても「削減した」ことが伝えられる。
- ・ライフサイクルでは、企業努力で削減できる数値・比率は小さいので、数値ではなく下がったという事実を認めてもらえる方がよい。

デメリット・課題、反対意見の例

- ・これ以上環境ラベルを増やすべきでない。たくさんありすぎてわからない。
- ・認知度の低いマークでは理解されない。
- ・少ししか削減しなくても同じマークが使えるなら、どのくらい削減できたのかがわからない。
- ・「削減された」ことの評価が技術的に難しい。

Copyright(C)2013 JEMAI All Rights Reserved

〇〇〇 一般社団法人産業環境管理協会 Japan Environmental Management Association For Industry

今後の計画案

- ・削減マークの活用に前向きなご意見の方々にヒアリングを実施。
- ・WGを立ち上げ、2015年からの欧州委員会の環境フットプリントコミュニケーションのテストや削減貢献量表示等の動向を確認しながら検討を行う。
- ・今後の製品環境配慮のコミュニケーション手法について、検討の内容を随時コミュニティ会合、WEBサイト等にて報告する。